

当協会においても、科学技術における重要基盤である放射線利用技術の向上に資するために、学術・技術情報の収集・提供、放射線利用に関する技術支援、一般社会への知識普及活動等を、より一層力強く推進し続けてまいります。

本年も引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

以上

ONSA の新たな活動方針とその取組みの状況

(一社) 大阪ニュークリアサイエンス協会 奥田 修一

1. ONSA の新たな活動方針とそのとりまとめの経緯[1, 2]

(一社) 大阪ニュークリアサイエンス協会 (ONSA) は、放射線利用技術の向上と産業振興を目的として、関西を中心に 40 年にわたり活動を続けている。これまで主に連携してきた放射線利用施設が利用を制限し停止となるのに伴い、2022 年度より活動の方針を見直して、多くの大学、研究機関や民間企業など個人や団体の放射線に関連する活動に幅広く貢献することとした。

その後、将来の ONSA のあり方について、ONSA 会員、外部の大学、法人等の多くの関係者から寄せられたご意見や期待に基づいてまとめられた、「ONSA の新たな活動方針」を 2024 年度から実行に移すことになった。この概要は次のとおりである。

基本方針：

これまでの方針に従い、放射線利用技術の向上による科学技術、産業の振興を図る。

新たな活動方針：

1. 放射線に関連する活動拠点とすること

「専門部会」を新たに設け、放射線に係る多様な分野で会員の自主的な活動を推し進め、関西を中心とする活動拠点とする。

2. 放射線に関連する連携拠点とすること

ONSA 内外で産学官民相互の連携を推し進め、関西を中心とする連携拠点とする。

この「新たな活動方針」の主な点は、従来定款には記載されていたが、設置されていなかった多様な専門部会を設けることである。専門部会は、少人数の会員でも設置することができ、ONSA が支援することで、その専門分野の活動を自由に行うことができる。この特徴を活かして個人会員を増やし、広範な連携を実現することが目標である。

2. 専門部会「ガンマ線照射利用部会」の設置と活動状況

今年度、最初に「ガンマ線照射利用部会」が発足し、この部会の主催で「関西におけるガンマ線利用施設の現状と将来」をテーマに第 81 回放射線科学研究会が開催された[3]。この結果、学術研究や試験のために利用できるガンマ線照射利用施設の維持・継続の困難さやいくつかの施設の利用停止が明らかになった。この状況を受けて、部会のメンバーである (株) コーガアイソトープから、保有施設をこれら基礎研究へも利用拡大することについて提案があるなど、この分野の将来に貢献できる大きな成果が得られている。またその他の専門部会の設立と準備も進められている。この状況は、今後 ONSA ニュースやホームページ[3]で逐次報告する。

3. おわりに

科学技術のさまざまな分野で、放射線利用の重要性が増す中、近年特に、放射線利用施設や関連組織の継続が困難になっている。この現状において、ONSA は今後の展開を見据えて新たな活動方針を設定し、その実現に向けて歩み出した。

放射線の利用に関心をお持ちの皆様、会員や関係者の皆様には、今後ともご支援ご協力をお願い申し上げます。

参考文献・資料

- [1] “2024年度からの ONSA の新しい活動方針”、ONSA ニュース No. 34-1(2024. 7) p. 3-4.
[2] “ONSA の活動とこれから”、2024 年度一般社団法人大阪ニュークリアサイエンス協会第 33 回放射線利用総合シンポジウム資料集、第 3 章 (2025) .
[3] ONSA ホームページ、<http://onsa.g.dgdg.jp/>.

第 33 回放射線利用総合シンポジウムのご案内

主催 大阪公立大学量子ビーム誘起反応科学研究所、一般社団法人 大阪ニュークリアサイエンス協会

後援 文部科学省 経済産業省近畿経済産業局 (国研) 日本原子力研究開発機構 (国研) 量子科学技術研究開発機構
(一財) 電子科学研究所 (一財) 大阪科学技術センター 大阪商工会議所 堺商工会議所

協賛 (一社) 日本物理学会 (公社) 日本化学会 (公社) 応用物理学会 (一社) 電気学会 (公社) 高分子学会
(公社) 日本分析化学会 (一社) 日本原子力学会 (公社) 日本医学放射線学会 (一社) 日本非破壊検査協会
(公社) 日本放射線技術学会 (公社) 日本アイソトープ協会 (一社) 近畿化学協会 (一社) 大阪府技術協会
(公社) 大阪府診療放射線技師会 (一財) 放射線利用振興協会 日本放射線化学会 日本放射光学会
(一社) 日本放射線影響学会 (一社) 日本保健物理学会 (一社) 日本接着学会 (公社) 日本表面真空学会
(一社) 日本核医学会 日本バイオマテリアル学会 日本防菌防黴学会 日本陽電子科学会 関西原子力懇談会
(一社) 日本放射化学会 (一部依頼中)

日時 2025年1月24日 (金) 9:55~17:00

場所 サンエイビル3F会議室 (ONSA 事務局の入居ビル、大阪市中央区南船場3-3-27)

開催形式 会場と Online (Zoom) の併用、講演は原則として Online

対象 大学や研究機関、民間企業の研究者、技術者などの専門家から一般市民まで

【開催の趣旨】 放射線は、多くの研究分野における基本的なツールとして利用され、先端科学を牽引してきました。放射線に関する研究は、放射線利用を基本とする広範な境界領域の学際研究です。また放射線の利用技術の向上が、利用分野の研究を飛躍的に発展させてきました。

今回で第33回目となる放射線利用総合シンポジウムは、学術研究から産業応用まで放射線利用技術の普及と向上を目的とし、異分野の研究者、技術者が相互に情報交換するという、他の講演会には見られない特徴があります。テーマとして取り上げられた放射線利用は、ナノ材料、バイオ、医療、環境、エネルギーなど様々な先端科学や産業応用の基盤となっています。本シンポジウムでは、このように多くの分野で注目される最先端の話題を取り上げ、さらに基礎からわかりやすく紹介することで、専門家から一般市民まで広く参加いただきます。

◇参加費：無料 (Zoom 参加、会場参加とも)

◇予稿資料集：希望者に1冊1,800 円で事前送付、りそな銀行 船場支店 普通預金 No.3635459
(主催団体の教職員、ONSA 会員は無料)

◇定員：会場参加40名、Zoom 参加100名

◇WEB 案内：<http://onsa.g.dgdg.jp/sy33-0.pdf>、

◇参加申込：<https://ws.fomzu.net/gen/S59578870/> または右のQR コードから

